

「産業集積における企業の生き残りを懸けた戦略展開」  
代表者 浅海裕磨・梶原愛香・高本真衣・三宅真広  
(経営システム学科組織戦略コース3年)

1. 目的と概要

本稿の目的は、衰退し行く産業の集積の中でも成長を遂げている企業に注目し、個別企業が個々に直面する危機に対してどのように生き残りをかけた戦略展開を行うのかという戦略的企業行動を明らかにすることである。本事例が示すものは、単に衰退期に個別企業がとる戦略的企業行動を捉えるだけではない。同じ産業集積内で同じ業務形態を有していた企業が、個々の危機に対しそれぞれの戦略的行動をとり、その結果として個々の生存領域を見つけ成長しているという事実である。衰退する産業集積の中で、個別企業の生き残りをかけた取り組みを環境適応という視点から捉え、一企業として、集積が衰退した際にどのような対応を取ったかを分析した。そして、本研究ではマイルズ・スノーの環境適応理論に企業の内外諸要因を加えた新しい見地からの分析を行い、衰退産業集積内の個別企業の生き残りをかけた戦略展開を明らかにした。また、個別企業の集積に対する間接的フィードバックの存在を指摘した。

2. 実施期間（実施日）

平成22年5月6日から平成23年1月11日

3. 成果の内容及びその分析・評価等

このプロジェクト事業は衰退する愛媛県今治市のタオル産業集積を事例に、集積内企業の生き残りをかけた戦略展開についてインタビュー調査を行い、マイルズ・スノーの環境適応理論に企業の内外諸要因を加え明らかにした。

また、このプロジェクト事業により、これまでの産業集積論である、集積の発生から衰退の論理に加えて、独自に集積の継続の論理について言及し、産業集積論に微力ながらも貢献したと言える。

4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

このプロジェクト事業を実施したことにより、愛媛県今治市のタオル産業集積の現状を明らかにし、集積内企業の生き残りを懸けた戦略展開を明らかにした。地方国立大学である本学を代表して四国愛媛県今治市を舞台にタオル産業集積について論文を作成したことは、地域活性化、地域密着の視点で一定の貢献があったと言えよう。

また、この研究において得られた結果の一部は日本のものづくり産業の再考へとつながるだろう。現在日本のものづくり産業は衰退が著しいながらも、国家や地域のレベルで復興させようと注目されている。しかしこの衰退に対して取られた政策や産業振興のほとんどが有効ではなかったという実情がある。本稿が日本のものづくり産業の実情の再考へ微力ながらも貢献できることを願ってやまない。

「産業集積における企業の生き残りを懸けた戦略展開」  
代表者 浅海裕磨・梶原愛香・高本真衣・三宅真広  
(経営システム学科組織戦略コース3年)

5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

本稿は、2010年度を以て修了となる香川大学山田仁一郎研究室最後のゼミ生からなる4人チームにて作成したものである。偶然にも個性溢れるメンバーが揃い、論文作成には数々の苦難があった。しかし、締め切りが迫る中で大学に泊まりがけで論文を作成したこと等、今思えば大切な思い出になったことも多々あった。本稿の作成を通して私たちに成長の場を与えてくださった山田仁一郎先生に感謝し、また新たな成長の場を求め、残された大学生活を過ごしていきたい。

6. 反省点・今後の抱負・感想等

本研究では衰退する産業集積における企業の生き残りをかけた戦略展開を見てきたが、実際には解決できていない問題も山積している。今回事例として今治タオル集積のタオルメーカー企業3社を取り上げたが、本稿の研究課題を解決するために、衰退産業において危機からの脱却とその後の成長を果たしている企業を選択した。これは調査設計上意味のあるものであったが、反面衰退と共に駆逐された企業との比較はできていないという限界があることは否めない。また集積内に数多く存在する企業群において本稿で取り上げたのはそのうちの3社でしかない。また定性調査にて研究を行ったため、集積の全体を語るに必要な定量データ、その他の企業についてのデータに欠けている。それゆえ、他の企業でも同様の理論が言えるのかは定かではなく、集積全体への貢献とは言い難い。しかし、今回我々は企業の視点、つまり仰視的な視点から、集積の維持、継続について研究を行った。現在、日本の産業集積論に必要なのはこれまでの集積の発生や衰退のメカニズムではなく、企業の視点から見た集積の衰退からの脱却、維持、継続の論理ではないだろうか。我々は本稿にて新たな産業集積論研究の一端を担った事をこの場で再度明らかにし、この論文を皮切りに集積の発展の論理について議論される日が訪れることを期待したい。

7. 実施メンバー

代表者 浅海裕磨 (経済学部3年)

構成員 梶原愛香 (経済学部3年)

高本真衣 (経済学部3年)

三宅真広 (経済学部3年)